

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5364874号

(P5364874)

(45) 発行日 平成25年12月11日(2013.12.11)

(24) 登録日 平成25年9月20日(2013.9.20)

(51) Int. Cl. F 1  
 A O 1 K 61/00 (2006.01) A O 1 K 61/00 A

請求項の数 1 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2010-68851 (P2010-68851)	(73) 特許権者	599035627
(22) 出願日	平成22年3月4日(2010.3.4)		学校法人加計学園
(62) 分割の表示	特願2006-328673 (P2006-328673)		岡山県岡山市北区理大町1-1
原出願日	平成18年12月5日(2006.12.5)	(73) 特許権者	312011419
(65) 公開番号	特開2010-162045 (P2010-162045A)		株式会社S I D創研
(43) 公開日	平成22年7月29日(2010.7.29)	(72) 発明者	山本 俊政
審査請求日	平成22年3月18日(2010.3.18)		岡山県玉野市田井五丁目46番62号
		審査官	松本 隆彦

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 人工飼育水

## (57) 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

水道水や河川水あるいは地下水に、塩化ナトリウムを7.0587 (g/l)、塩化カルシウム2水和塩を0.3641 (g/l)、塩化カリウムを0.18125 (g/l)を溶解させて得られる略1.004の比重の水溶液からなる海水魚と淡水魚とを共存させて飼育するのに用いる飼育水。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

この発明は、海水魚及び淡水魚を閉鎖環境において養殖や飼育する際に用いる飼育水にかかり、詳細には、内陸部で水槽等の飼育槽に海水魚や淡水魚を生息させて飼育する際に用いるのに好適な人工飼育水に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

魚の養殖は古くから行われているが、従来一般に行われてきた養殖は、海に生息する海水性の魚であれば、湾内に網を巡らして海水をそのまま利用した閉塞環境となる生簀を構築し養殖を行い、川魚であれば河川を堰き止める等してやはり閉塞環境を構築し養殖を行っていた。

また、海に生息する魚を陸上で飼育する場合もあったが、海水魚の飼育においては海水が必須と考えられ、内陸部での飼育では大量の海水が必要となるため安価な飼育ができず

10

20